

いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン 2025 骨子案について

平成 23(2011)年策定の板橋区文化芸術振興ビジョンについては、板橋区文化芸術振興基本計画 2020 及び板橋区多文化共生まちづくり推進計画 2020(以下、「現計画」という)の改定に合わせ、区の文化芸術・多文化共生を一体的に推進する総合的なビジョン「いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン 2025」として策定を進めている。策定にあたっては、区民や関係団体、学識経験者などから幅広い意見を得るため「いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会」ならびに個別課題を検討する「文化芸術部会」「多文化共生部会」を設置し、検討を重ねている。

令和2年6月 24 日に実施した第2回検討会において、報告書案が示されたので、これまでの検討経過と併せてビジョン骨子案を報告する。

記

1. 検討経過と主な内容

3月4日(水)	第1回文化芸術・多文化共生庁内調整会議(電子会議室開催)
～11日(水)	【内容】検討の進め方
3月25日(水)	第1回いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会
	【内容】ビジョンの策定方針、現計画の進捗状況と区民の意識意向
6月1日(月)	第1回多文化共生部会
	【内容】検討テーマ「板橋らしい国際交流」「日本語教育」
6月3日(水)	第1回文化芸術部会
	【内容】検討テーマ「板橋らしい文化」「文化芸術活動の場」
6月24日(水)	第2回いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会
	【内容】各部会の報告、報告書構成案の検討
7月7日(火)	第2回文化芸術・多文化共生庁内調整会議(電子会議室開催)
～13日(月)	【内容】検討会の状況報告、ビジョン骨子案
7月7日(火)	第2回文化芸術部会
	【内容】検討テーマ「文化芸術情操教育」「障がい者の文化芸術」
7月10日(金)	第2回多文化共生部会
	【内容】検討テーマ「国際理解教育」「地域交流と災害対策」
8月3日(月)	第3回文化芸術部会 【内容】まとめと報告
～13日(木)	第3回多文化共生部会 【内容】まとめと報告

2. 添付資料

- 別紙1 いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン 2025 骨子案【本編】
別紙2 いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会 報告書(案)

いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン 2025 骨子案について

文化芸術振興ビジョン（平成 23 年 3 月策定）

- 1 基本理念
板橋の文化力 ～板橋の文化を活かし、楽しみ、つなぐまち～
- 2 文化芸術振興の方向性
○活かす（区の文化芸術特性・資源を活かす）
○楽しむ（区民主体の文化芸術振興）
○つなぐ（次世代へ継承する）
- 3 施策の展開
（1）文化芸術の風おこし （2）歴史文化の記憶つむぎ
（3）文化芸術の人そだて （4）文化芸術の土づくり
- 4 文化芸術振興の担い手

文化芸術振興基本計画 2020（平成 28 年度～令和 2 年度）

- 1 将来像
「歴史や伝統を大切にしながら、多様な文化芸術活動が活発に行われ、楽しみ、つなぎ、創造するまち」
 - 2 重点目標
（1）個性あふれる文化芸術の創造
（2）伝統文化の継承
（3）多様な文化芸術情報の収集と発信
 - 3 評価指標・目標設定
○文化会館大・小ホール稼働率 70%（H29 実績 72.8%）
○過去 1 年の間に文化芸術にふれた区民の割合 100%（H29 実績 78.9%）
○区の伝統芸能における認知度 50%（R1 調査予定）
○文化芸術振興イベント参加者数 250,000 人（H30 実績 255,612 人）
- 【主な取り組み・成果】
○美術館リニューアル
○絵本のまちの推進
○区民文化祭前夜祭の開催
○文化会館利用率目標達成・過去最高更新
○海外姉妹友好都市との文化交流
○旧粕谷家住宅の復元・公開
○史跡公園整備計画の推進
○財団経営改善・アウトリーチ事業拡大
○アール・ブリュット展開催 など
- 【今後の主な課題等】
○文化会館の老朽化対策・事業重複の調整
○地域文化の創造支援と国際交流連携 など

多文化共生まちづくり推進計画 2020（平成 28 年度～令和 2 年度）

↑ ↓ 文化芸術振興と多文化共生の連携

- 1 将来像
『もてなしの心』で言葉や文化のちがいを認め合い、外国人とともに暮らすふれあいと活力のあるまち『板橋』
 - 2 重点目標
（1）東京 2020 大会開催を踏まえた施策の展開
（2）多言語化対応のさらなる充実
（3）多文化共生まちづくり推進のための人づくり
 - 3 施策の柱
（1）コミュニケーション支援
（2）生活支援
（3）多文化共生の人づくり
 - 4 評価指標・目標設定
○過去 1 年間で外国人とコミュニケーションがあった区民の割合 41%（H29 実績 48.7%）
○多文化共生推進イベント参加者数 660 人／年平均（H28～29 実績 510 人／年平均）
○区設置サインのユニバーサルデザイン化実施の割合 100%（H30 実績 30%）
- 【主な取り組み】
○財団日本語教室改革
○転入外国人向けパンフレット 4 か国語併記
○観光ガイドマップ・観光アプリ多言語対応
○ごみ出しアプリ多言語対応
○戸籍住民課窓口電話通訳にベトナム語追加
○施設、道路、公園、屋外案内標識サイン多言語化
○財団多文化紹介・国際理解教育事業拡大
○財団ホームビジット事業と日本文化鑑賞連携
○外国人児童・生徒への日本語学習初期支援
○友好都市との財団青少年交流ツアー
○MOTESHIプロジェクトの推進
- 【今後の主な課題等】
○増加する外国人住民への支援充実
○日本語教育の充実とやさしい日本語の検討
○国際交流と文化事業の連携促進 など

取り巻く状況の変化・主な課題等

【文化芸術活動の拠点・文化会館を取り巻く課題】
○昭和 57（1982）年開館→老朽化と特定天井対策
○No.1 プラン 2021→大山駅東地区周辺施設の配置検討
○行政評価→指定管理者と財団の文化事業重複

【文化財の保存と活用】
○史跡公園の整備構想・基本計画策定→設計・工事

【東京 2020 大会気運醸成事業のレガシー】
○区民文化祭前夜祭による板橋の文化発信
○伝統文化鑑賞とホームビジット事業連携
○多文化紹介・国際理解教育事業の拡大
○友好交流都市との交流促進

【国の動き】
○改正文化芸術基本法施行（平成 29 年 6 月）
○文化芸術推進基本計画策定（平成 30 年 3 月）
→文化芸術の創造・発展・継承と教育、国際交流、多様性
○障害者文化芸術推進法施行（平成 30 年 6 月）
○障害者文化芸術推進基本計画策定（平成 31 年 3 月）
○改正出入国管理法施行（平成 31 年 4 月施行）
→外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策
○日本語教育推進法施行（令和元年 6 月施行）

【区の人口動態・推計】
○板橋区人口ビジョンを平成 31 年 1 月に改定
○総人口は増加傾向、2030 年をピークに緩やかに減少
○自然減、10～20 代の転入超過傾向は継続
○生産年齢人口は 2025 年をピークに緩やかに減少
○老年人口及び高齢化率は増加傾向
○外国人は増加、令和 2 年 28,782 人（総人口比 5%）
（cf. 平成 28 年 20,147 人、43%増）。53%は中国、上位の中国、韓国・朝鮮、ベトナム、フィリピン、ネパール、台湾で 86%を占める。外国人の 88%は生産年齢人口

【No.1 プラン 2021（平成 31 年 1 月）】
○SDGs の推進
○未来創造戦略の展開
若い世代の定住化戦略、健康長寿のまちづくり戦略、未来へつなぐまちづくり戦略を引き継ぎ、オリンピック・パラリンピックレガシープラン、にぎわい創出に向けた魅力拠点整備を推進
○公共施設の配置検討、改築・改修等に向けた検討

◎文化芸術振興基本計画 2020 及び多文化共生まちづくり推進計画では、東京 2020 大会を契機として、文化芸術振興と国際交流の連携を推進
◎法改正などにおける国の動きも、文化芸術の振興にあたり、国際交流や多様性を重視
◎多文化共生の推進にあたっては、外国文化への理解とコミュニケーション支援とともに、外国人が日本の文化に触れる機会を増やしていくことが重要

◎文化芸術振興基本計画と多文化共生まちづくり推進計画はともに、板橋区基本構想で掲げる「心躍るスポーツ・文化」ビジョンを実現するための個別計画であり、板橋区基本計画 2025 の後半 5 年間（令和 3 年度～7 年度）における文化芸術・多文化共生施策の方向性については、一つのビジョンとして打ち出し総合的に施策を展開していく

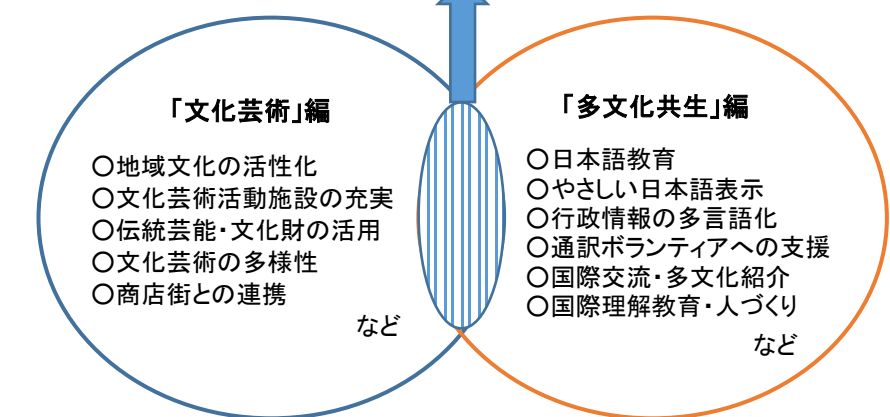
いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン 2025

- 計画期間：令和 3 年度～令和 7 年度
◎区民や学識経験者などで構成する検討会を設置、板橋区基本構想の「心躍るスポーツ・文化」ビジョンのうち、文化芸術・多文化共生にかかるビジョンを具体化
◎文化芸術・多文化共生ビジョンを実現するための施策を明確化

文化芸術・多文化共生にかかるビジョンを具体化

文化芸術・多文化共生の推進にかかる共通領域 ～文化芸術による社会包摂～

- ◎文化芸術活動・文化施設の多言語化、ユニバーサルデザインの推進による交流機会の創出
◎地域文化活動への参加と住民としての相互理解
◎新たな文化芸術と多文化共生の価値の創造



検討会に 2 つの部会を設置し、まとめていく

いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン 2025 骨子案について

